

「都市構造可視化」 の実務における利用方法

～How to use “visualization of
urban structure” in practice～



中部地方整備局 建政部 都市整備課

1.はじめに

「都市構造可視化サイト」の実務上での使用場面

- ① **都市計画決定 大臣同意案件** 下協議時 状況把握
- ② **立地適正化計画** 相談時 状況把握
- ③ **事業予算要求時**（街路交通調査費等） 状況把握
- ④ **各種調査・問合せ時** 対象都市 概況把握
- ⑤ 管内 **各種会議** 等での話題提供
- ⑥ 管内 **都市交通協議会**等での話題提供
- ⑦ 管内 **立地適正化計画検討会議**での意識共有
- ⑧ **職員研修 班別討議**での課題共有

2. 使用場面①

- ① **都市計画決定 大臣同意案件** 下協議時 状況把握
- ② **立地適正化計画** 相談時 状況把握
- ③ **事業予算要求時** (街路交通調査費等) 状況把握
- ④ **各種調査・問合せ時** 対象都市 概況把握
- ⑤ 管内 **各種会議** 等での話題提供



3

3. 使用場面②

- ⑥ 管内 **都市交通協議会**等での話題提供

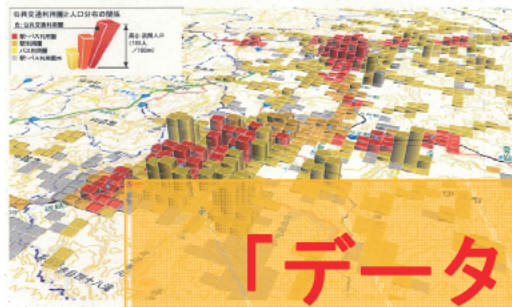


4

4. 使用場面③

⑥ 管内 都市交通協議会等での話題提供

三重県名張市 公共交通利用圏と人口分布(2010,2015年・500mメッシュ)



三重県名張市 延岡人口分布(2000年・500mメッシュ)

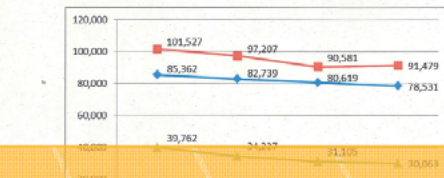


補注: 都市構造可視化計画、地理院地図を使用

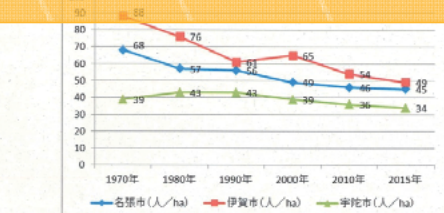
i-都市交流会議2020

<名張市と周辺都市(三重県伊賀市・奈良県宇陀市)に関する一考察>

・現在、日本の人口が減少しているなか、名張市と隣接する伊賀市、宇陀市とも2000年から人口が減少している。しかし、伊賀市のみ2015年から2019年に約900人の人口増加となっている。



・名張市を含めた周辺市では、人口密度が高い(40人/ha以上)エリアが広がっている。その結果、市域内では人口密度が高くなり、市域外では人口密度が低くなる傾向が見られる。また、市域内では人口密度が高くなり、市域外では人口密度が低くなる傾向が見られる。また、市域内では人口密度が高くなり、市域外では人口密度が低くなる傾向が見られる。



・名張市はこれまで大都市近郊のベッドタウンとして、郊外を中心に住宅開発が進んだとみられる。民間人口と公共交通網の関係を見ると、市域内では人口密度が高くなり、市域外では人口密度が低くなる傾向が見られる。また、市域内では人口密度が高くなり、市域外では人口密度が低くなる傾向が見られる。また、市域内では人口密度が高くなり、市域外では人口密度が低くなる傾向が見られる。

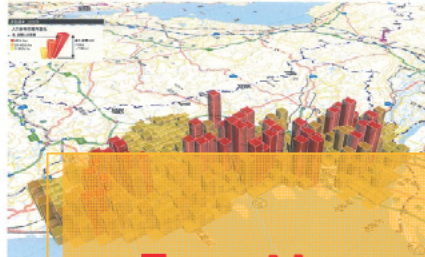
一考察

5

5. 使用場面④

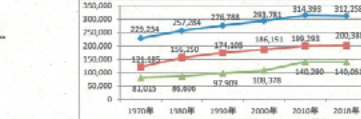
⑦ 管内 立地適正化計画検討会議での意識共有

<2010年(平成22年)>



<四日市市と周辺都市(鳥取市・伊賀市)に関する一考察>

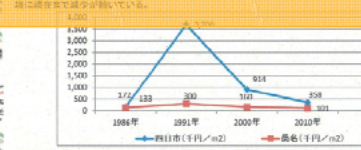
・2015年国勢調査以降、日本の人口が減少しているなか、四日市市を含めた周辺市町村では現在も人口が増加又は横ばいとなっている。(1970年～2015年: 四日市市 約1.3倍、鳥取市 約1.45倍、伊賀市 約1.73倍)



・四日市市を含めた3市では1970年代は近郊市街地を中心に人口密度が高くなり、市域外では人口密度が低くなる傾向が見られる。1980年代以降は市域内でも人口密度が高くなり、市域外では人口密度が低くなる傾向が見られる。また、市域内では人口密度が高くなり、市域外では人口密度が低くなる傾向が見られる。



・一方で四日市市の近郊市街地や市域内でも人口密度が高くなり、市域外では人口密度が低くなる傾向が見られる。また、市域内では人口密度が高くなり、市域外では人口密度が低くなる傾向が見られる。



・1970年代、四日市市域内の人口密度が高くなり、市域外では人口密度が低くなる傾向が見られる。1980年代以降は市域内でも人口密度が高くなり、市域外では人口密度が低くなる傾向が見られる。また、市域内では人口密度が高くなり、市域外では人口密度が低くなる傾向が見られる。

「現状」「課題」の共有が可能

補注: 都市構造可視化計画、地理院地図を使用

i-都市交流会議2020

6

6.使用場面⑤

⑧ 職員研修 班別討議での課題共有

- ◎ テーマ：「国土交通分野に求められる国際貢献及び海外展開のニーズに対し、我々にはどのような強みがあって、その強みをいかしてどのように国際貢献および海外展開支援を主体的に行っていくべきか」

1. 我々の強み

災害を克服・先進的な技術

2. 国土交通分野に求められる

インフラ需要への対応

3. 社会基盤整備に係る技術協力や本邦企業の海外

について貢献できること

質の高いインフラ整備・

3. 社会基盤整備に係る技術協力や本邦企業の海外

「言葉」の「難しさ」

(2) 課題の見える化

新興国・地域での迅速な課題把握のための支援

→「見える化 (visualization)」

新興国・地域での「課題」把握
→サポート (support) 可能

i-都市交流会議2020

→ データを「見える化 (visualization)」、迅速な「課題」把握をサポート (support)

7



i-都市交流会議2020

8